

商工会女性部はまちに  
元気と安心をお届けしています。

# はちみつ 通信

## 「SDGs」を学んで 海岸クリーン活動や BCP策定につなげる 南伊勢町商工会女性部(三重県)



南伊勢町は50%超の高齢化率と、少子化が顕著であり、基幹産業である漁業は魚種別漁獲量合計で三重県内1位を誇っているものの、海岸沿いの環境に関しては、流木などの自然物以外にもペットボトルなど私たちの日常生活から生じる生活ごみが多く見られ、海岸の利活用や漁業への影響のみならず生態系への影響も懸念されています。そこで私たち女性部では、「SDGs」について理解を深めるため、まず

は楽しみながら学べる体験型カードゲームで学習。バランスのとれた社会に必要なことは、周りの状況を見ながら皆が一丸となって協力をしていくことだと学びました。そして、今、自分たちでできることを考えた結果、海岸クリーン活動においても、積極的に持続可能なまちづくりに向けた活動を実施することができ、部員間の絆を深めることができました。

また、地域の大半が南海トラフ地震



おからナゲットを試食する女性部員たち

## 新しい特産品として 地域の豆腐と米粉で おからナゲットを開発 有田川町商工会女性部(和歌山県)



の津波浸水区域に該当しています。そこで、緊急対応および復旧方法の整理など具体的な対策をしておき、いざというときに迅速に事業の復旧・再開ができるよう、持続可能なまちづくりや



海岸クリーン活動にて

地域活性化につながるBCPを策定し、不測の事態に備えることができました。これらを機に、女性部として地域のためにできることを今後も引き続き実施していきたいと考えています。



BCP策定にも取り組んだ



SDGsの講習会の様子



開発したおからナゲット

有田川町は旧吉備町、旧金屋町、旧清水町が合併したまちです。日本一の生産量を誇る「有田みかん」や「ぶどう山椒」などの産物があるほか、日本の棚田百選に選ばれている「あらぎ島」など豊かな自然にも恵まれています。部員79人の当女性部では、コロナ禍によりイベントが開催されていないなか、今できることは何かを部員同士で話し合いました。そこで、これまでに参加したイベントの出品内容を振り返り、特産品として「おからナゲット」を開発することになりました。開発にあたり、①地元特産の豆腐を使っていきたい、②工程を簡単にすることで部員の世代交代があっても続けやすいようにしたい、③きちんと利益が出るようにしたい、という部員の思いのもとで取り組みました。開発途中、おからのパサパサ感をどうなくすのかなどに悩みましたが、小



あらぎ島の棚田

麦粉の代わりにあらぎ島で採れた米粉を使うなど改良を何度も行い、納得いくものができ上がりました。試食会でアンケートを行った結果、「おいしい」「地球環境にもやさしい」「アレルギーを気にしなくてよく、子どもにも食べさせたい」という評価を得ることができました。今後は地元イベントを中心に販売を行い、地元の人に地元のよさを伝えていきたいと思えます。コロナ禍だから「できること」を有田川町商工会女性部は果たしていきます。